

**場所
面積**

群馬県安中市
3.2ha

活動目的

本地域の自然と地域における人と自然とのかかわり方を次世代に伝えるとともに、体験をととして生物多様性の大切さを、普及することを目的としている。

サイト概要

ぐんま百名山の山麓に位置し、ヤマユリなどの多種の野草が見られ、秋の七草をすべて観測できる場所として知られている。申請区域内を含む周辺の山林は古くから椎茸の原木の産地として集落の生活の支えとなっており、その切り株などにはタマムシが自然発生している。また、安中市みりよく創出部との連携で子供たちに自然の大切さや楽しさなど伝承している。



土地利用の 変遷

現在の花畑は谷津田であったが、耕作放棄地となり荒れてしまった。地元有志が立ち上がり里山の再生ムードを盛り上げたことにより、賛同者が集まり維持管理の体制が整い現在に至っている。
棚田・二次林は変わらず維持されている。
旧谷津田は、草地や水辺環境になっていて、ビオトープの形態をなしている。

サイト周辺 の環境

周辺には小規模な棚田がある。ここの稲作は無農薬栽培を行っているが、後継者のいない農家稲作や将来への継続に危機感を抱いている。

アピール ポイント

本サイトは、魅力ある里地里山を生物多様性・山地生態系の保全をサステイナブルに展開し、登山者や花畑来訪者に自然愛護の大切さを提唱していく中で、植物や昆虫などの観察会や撮影会を開催しており、県内外のナチュラルリストに多くの評価をいただいている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトでは西部分に棚田があり、東部分はかつて谷津田であった。現在は、旧谷津田の一部は花畑とし、残りの部分は草地となっており、水辺環境も残されている。これらの南側にはコナラ等の二次林がある。

【主な植生】

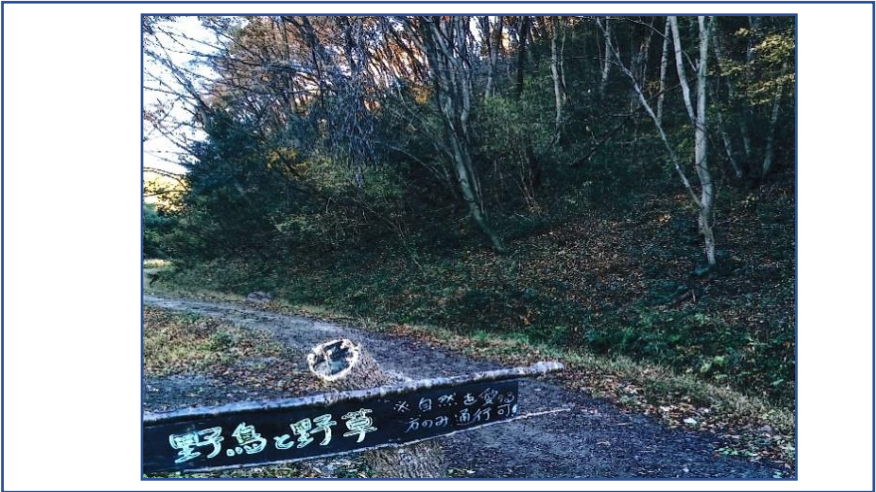
申請区域内の主な植生は水田等（水田雑草群落）、二次林（クリーコナラ群集）である。
水田雑草群落には水田のほか、放棄水田、花畑などが含まれる

【確認された主な動植物など】

申請区域内で確認された主な里地里山に特徴的な種は以下のとおりである。
植物 ヤマユリ シュンラン ヤブラン ヨシ ミゾソバ など確認
哺乳類 ホンドギツネ タヌキ ノウサギ イノシシ ニホンジカ
鳥類 オオタカ ウグイス メジロ ルリビタキ など 28種（別表）
昆虫類（チョウ類） キアゲハ アサギマダラ オオムラサキ ヤマトシジミ など 37種（別表）
昆虫類（その他） ルリモンハナバチ オオセイボウ ハラビロトンボ ヤマトタマムシなど 25種（別表）



写真の撮影年月：2023年7月25日
写真の説明：ヤマユリ



写真の撮影年月：2023年11月30日
写真の説明：二次林

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは棚田、花畑、旧谷津田、二次林から構成されている。このうちかつて谷津田であった花畑を中心にシイタケの駒打ち体験会、花や昆虫の観察会を開催しており（子供連れ家族等を対象として2022年と2023年に開催）、年々市民に好評を頂いている。

【主な植生】

申請区域内の主な植生は水田等（水田雑草群落）、二次林（クリーコナラ群集）であり、水田雑草群落の一部が花畑である

【確認された主な動植物など】

申請区域内で確認された主な動植物は以下のとおりである
植物 ヤマユリ シュンラン ヤブラン ヨシ ミゾソバ など確認
哺乳類 ホンドギツネ タヌキ ノウサギ イノシシ ニホンジカ
鳥類 オオタカ ウグイス メジロ ルリビタキ など 28種
昆虫類（チョウ類） キアゲハ アサギマダラ オオムラサキ ヤマトシジミ など 37種
昆虫類（その他） ルリモンハナバチ オオセイボウ ハラビロトンボ ヤマトタマムシなど 25種



写真の撮影年月：2023年4月2日
写真の説明：椎茸駒打ち体験



写真の撮影年月：2023年11月6日
写真の説明：椎茸の成長の様子

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトは棚田、花畑、旧谷津田、二次林から構成されている。旧谷津田や二次林ではホタル類やシュンランなどの希少な動植物が確認されている。

【確認された希少種】

本サイトの区域内では昆虫類や植物の希少種が確認されている。主な種は以下のとおりである。

ゲンジボタル *Luciola cruciata*（群馬県レッドリスト準絶滅危惧）

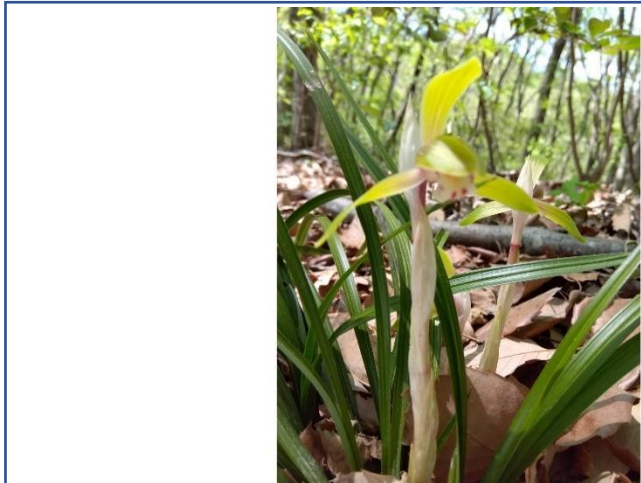
ヘイケボタル *Luciola lateralis*（群馬県レッドリスト準絶滅危惧）

シュンラン *Cymbidium goeringii* (Rchb.f.)（群馬県レッドリスト絶滅危惧II類）



写真の撮影年月：2023年6月23日

写真の説明：蛍



写真の撮影年月：2023年4月10日

写真の説明：シュンラン

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
〈活動目的〉 本地域の自然と地域における人と自然とのかかわり方を次世代に伝えるとともに、体験を通して生物多様性の大切さを普及することを目的としています。 〈活動内容〉 申請区域を①棚田②花畑③旧谷津田④二次林の上述の価値(3)(4)(5)(6)の保全に貢献するよう、以下の保全・利用活動を行う。 ①棚田 このゾーンでは水生昆虫が生息している。（水質の管理を行っている） ②花畑では、秋の七草などがあり、ルリモンハナバチやオオセイボウ、アサギマダラの保護や観察を行う。（スズメバチの巣の駆除） ③谷津田 草地にはヨシやミゾソバなどの植生が確認されていて、観察道を含めた保全を行う。ゲンジボタルやヘイケボタルが生息し、カワナも豊富に生息している。 6月20日ごろからは蛍の観察会も行う。観察道の維持管理は幼虫さなぎの成長サイクルに合わせ、生育を害さないよう慎重に行う ④二次林 二次林では野鳥やヤマユリなどの保護活動も行う。ゲンジボタルやヘイケボタルが生息し、カワナも豊富に生息している。（ホタル産卵時のコケ等の管理を行っている）ヤマユリの保護活動は二次林の整備と重なる部分が多く、冬季間を中心に枯れ木や倒木の処理、下草部分の篠などの刈取りを行う。 〈実施体制・計画の見直し〉 里山の花畑・里の小屋友の会が中心となり、エリアの保全や自然共生についてのアピールを行っていく。イノシシやシカの食害対策としては、安中市の協力を得て対処する。	【モニタリング対象】 鳥類、昆虫類（特にホタル類、アサギマダラ、オオセイボウ） 植物（特にシュンランなど） 【モニタリング場所】 ①棚田ゾーン ②花畑ゾーン（アサギマダラ、オオセイボウ） ③旧谷津田ゾーン（ホタル類） ④二次林ゾーン（ホタル類） 【モニタリング手法】 各ゾーンにおける目視・観察。特にホタル類とアサギマダラについては観察会において個体数を記録しており、これを継続する。 【モニタリングの実施時期及び頻度】 モニタリング対象に応じて、基本的に毎年1回、以下の時期に実施する。 鳥類 冬季（通年）、植物（通年）、昆虫類 春～秋季（ホタル類6月～8月、チョウ類4月～10月、アサギマダラ10月） 【モニタリング実施体制】 基本的に毎年、当会（里山の花畑・里の小屋友の会）が実施する。写真愛好家などに参加を呼びかけ、モニタリングの体制を整える。群馬県自然保護連盟等の相談の上、より内容のある実施方法の指導を依頼している。